

イギリス・ロマン主義文学における知のネットワークと社会改革に関する研究

最終更新日：2021年4月

【プロジェクト代表者】
英語教育ユニット
教授
後藤 美映

キーワード 文学、言葉、知識、社会改革

プロジェクトの内容（目的・方法・結果と意義）

目的：本研究は、イギリス・ロマン主義文学が、大衆を啓蒙するための知識を伝播し、新たな人間性と社会改革のヴィジョンを提示するものであったことを明らかにすることである。

方法：イギリス・ロマン主義時代の詩および、19世紀初頭の文芸批評誌等を精読し、時代の歴史的・政治的な文脈を照射し、文学の革新的創造性を明らかにする。

結果と意義：詩という言葉は、大衆へと向けられた啓蒙のための知識であり、その人間性についての知の体系は、人間の共同体を統一し救済するための民主的な装置として機能することが意図されていたといえる。

成果の応用可能性（私たちの活動の成果は、このような分野にこのように貢献することができます。）

①小学校の外国語活動および外国語科の授業や中学校、高校の外国語の授業において、母語である日本語や外国語としての英語をともしどのように言葉として学ぶことができるかについて教授する研究として応用可能である。日本語や英語が共通して持つ言葉としての創造的な意味合いや、両方の言葉の文化的、歴史的差異を通して考察される異文化理解といったことについて研究可能である。

②文学という具体的な文脈をもとに、言葉が使用されるテキストをどのように読み、どのような内容を読み取るかについて、具体的な言葉の意味を掘り下げながら読むことの研究について応用可能である。

このプロジェクトの形成に寄与した制度等

令和2年度科研費獲得推進支援プロジェクト

プロジェクト構成員（所属・職名・氏名・役割分担）

英語教育ユニット
教授
後藤 美映
研究代表

